

## 5 近畿

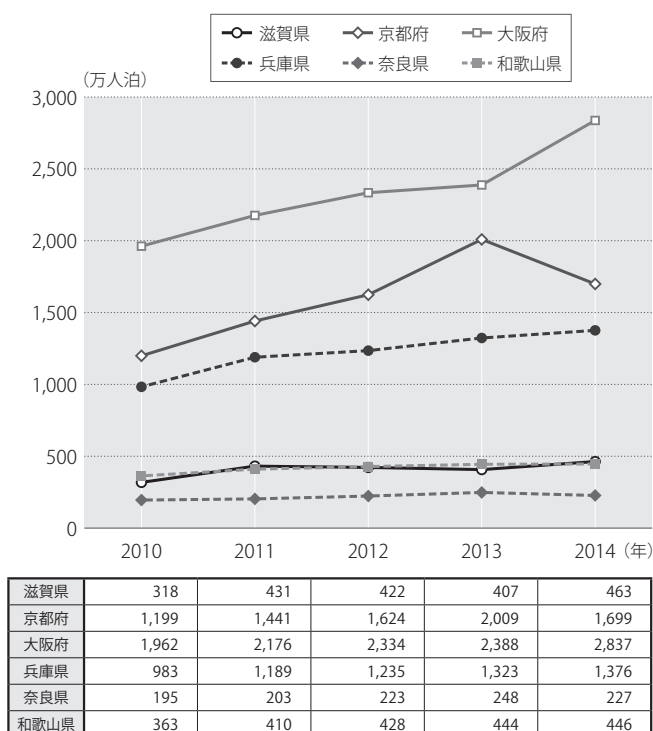
安定的に増加傾向にある外国人延べ宿泊者数  
紀伊山地の霊場と参詣道世界遺産登録10周年  
京都市内で高級ホテルの開業相次ぐ

### (1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると14年1月～12月の近畿各県の延べ宿泊者数については、近畿全体では7,047万人泊となり、前年比3.3%増と、関東地方(新潟県・山梨県を含む)に次いで大きい伸び率となった。延べ宿泊者数の伸び率の多い順に、大阪府(前年比18.8%増)、滋賀県(同13.6%増)、兵庫県(同4.0%増)、和歌山県(同0.3%増)であった。一方、京都府は前年比15.4%減、奈良県は前年比8.5%減となった。近畿地方は両極に分かれる結果となった(図IV-5-1)。

一方、外国人延べ宿泊者数については、近畿全体では1,085万人泊となり、前年比36.8%増となった。国のビジット・ジャパン事業による訪日プロモーションをはじめ、訪日外国人旅行者の受入環境整備の推進、各都道府県や自治体の取り組みが積極的に行われた他、円高の是正、東南アジア諸国のビザ発給要件の緩和措置なども重なり、過去最高の数値を記録した。また、関西国際空港では14年度の旅客数が2,004万人(前年度比11%増)となり、14年ぶりに2,000万人を突破したが、そのうち国際線の外国人旅客数は699万人(前年度比41%増)で、初めて日本人(630万人)を上回った。

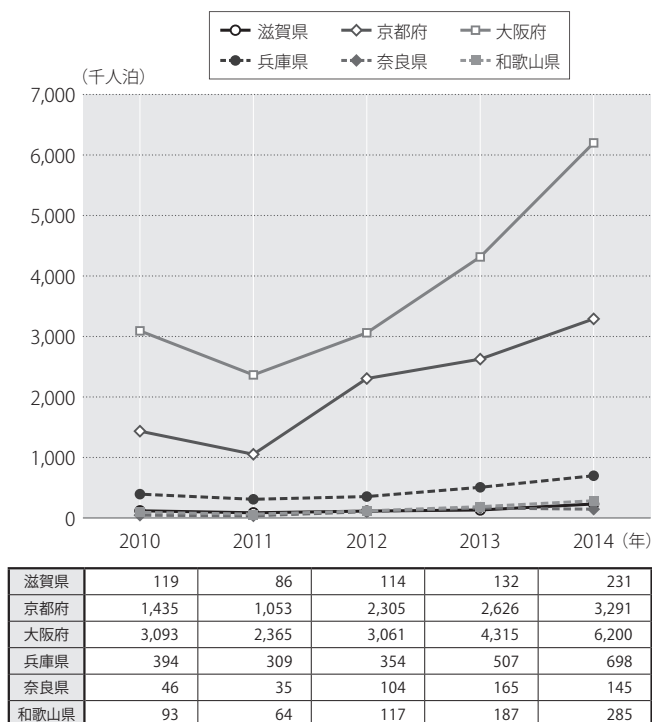
図IV-5-1 延べ宿泊者数の推移(近畿)



※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする  
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-5-2 外国人延べ宿泊者数の推移(近畿)



※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする  
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

外国人延べ宿泊者数の伸び率の多い順に見ると、滋賀県(前年比75.0%増)、和歌山県(同52.2%増)、大阪府(同43.7%増)、兵庫県(同37.6%増)、京都府(同25.3%増)であった。奈良県は前年比11.7%減となっている(図IV-5-2)。

### (2) 観光地の主な動向

#### (府県)

##### ●滋賀県

##### ○琵琶湖畔にある観光施設の連携・夏の誘客

滋賀県の琵琶湖畔にある観光施設が連携し、14年7月から夏の観光客誘致に取り組んだ。各施設と地元の観光協会が実行委員会を組織し、西日本旅客鉄道の企画切符に連動してキャンペーンを展開した。観光施設が連携して夏に受入態勢を整えるのは今回が初めてであった。

実行委員会には彦根城(彦根市)や黒壁スクエア(長浜市)、琵琶湖周航の歌資料館(高島市)、水郷のさとまるやま(近江八幡市)、びわ湖大津館(大津市)など湖周辺にある約40施設が参加した。

##### ●京都府

##### ○「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」の取り組み

京都府では13年3月に日本海に面する京都府北部地域における「海の京都」構想を策定し、官民連携による魅力的な観光まちづくりを進めてきた。推進主体である「海の京都観光推進協議会」は観光庁に「海の京都観光圏」整備実施計画を申請し、14年7月に認定された(表IV-5-1)。

また、毎年全国の主要港湾都市で開催されてきた海フェスタ

の開催地として14年は舞鶴港が選ばれたが、「海の京都」を全国に発信するとともに京都府北部の活性化につなげるため、開催地を「海の京都」観光圏の7市町に広げ、14年7月19日～8月3日の期間において「海フェスタ京都」を開催した。

さらに、「海の京都」に続き、平成26年度は京都府中部を対象とする「森の京都」、京都府南部を対象とする「お茶の京都」の推進に向けた取り組みを始めた。「森の京都」は豊かな森林や里山を生かした地域づくりを目指し、「由良川・桂川上中流域」の国定公園指定なども視野に入れている。「お茶の京都」は「宇治茶生産の景観」の世界遺産登録を目指し、優れた茶畑などの景観創出などを目指すものである。

表IV-5-1 「海の京都観光圏」整備計画

計画期間	平成26年度から平成30年度（5カ年）	
観光圏の区域	海の京都7市町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）	
地区の設定	主たる滞在促進地区	天橋立地区、夕日ヶ浦地区
	滞在促進地区	福知山地区、舞鶴地区
	交流地区	伊根浦舟屋群地区、綾部まちなか地区など11地区
目標	「主たる滞在促進地区」満足度・リピーター率	5年で10%増
	旅行消費額・宿泊者数	5年で20%増
取り組み	マーケティング調査、滞在プログラム造成、ブランド観光PR等、アクセス向上、観光案内所整備、人材育成など	
実施主体	海の京都観光推進協議会（府、7市町、観光協会などにより構成）	

資料：海の京都観光圏整備計画をもとに（公財）日本交通公社作成

●兵庫県

○兵庫ツーリズム戦略の策定

兵庫県では、平成22年度に策定した「ひょうごツーリズム戦略（計画期間：平成23～25年度）」を踏まえ、新たな「ひょうごツーリズム戦略（計画期間：平成26～28年度）」を策定した。将来像を「五つ星 ひょうご」として5つの戦略と10の行動プログラムを掲げた。

●奈良県

○奈良観光統計ウィークの開催

14年11月17日～21日の5日間にわたって観光統計に関する2つのイベントが「奈良観光統計ウィーク」として開催された。11月17日・18日はOECDとEU統計局との共催により「第13回観光統計グローバルフォーラム」が日本のOECD加盟50周年事業の一環としてアジアで初めて奈良において開催され、20日・21日は世界観光機関（UNWTO）との共催により「UNWTO観光統計スペシャルワークショップ」が開催された。「第13回観光統計グローバルフォーラム」は世界40カ国から約200人、「UNWTO観光統計スペシャルワークショップ」は世界47カ国から約200人の参加があった。

○外資系高級ホテルの誘致に向けた動き

宿泊施設数が少ないことが長年の課題であった奈良県は、平城京跡近くの県営プール跡地を滞在型観光・人々の交流を促進する新たな拠点として創出すべく、官民複合的に事業を展

開する「ホテルを核とした賑わいと交流の拠点整備事業」を構想した。14年8月末から事業者の募集を行ってきた結果、12月にホテル事業予定者が不動産開発大手の「森トラスト（東京）」などの企業グループに決定した。今後はこのグループが外資系高級ホテルの運営会社との交渉を進め、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催までの完成を目指す予定である。

●和歌山県

○和歌山デスティネーションキャンペーンの展開

和歌山県および県内市町村、観光関係団体などはJRグループ6社と協働し、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録10周年を契機に和歌山デスティネーションキャンペーン（以下、わかやまDC）を実施した（表IV-5-2）。結果、高野山エリア・本宮エリアで対前年比プラスとなる宿泊客数を記録した他、観光ガイドについては高野山エリアでは、今年の開創1200年に関わるプロモーション効果も相まって対前年比を大きく伸ばした。

また、わかやまDCで得られた成果を踏まえてDC終了後も評価の高かった企画をブラッシュアップして継続している他、15年4月～6月にはアフターDCとして企画さっふの販売や2次アクセスの充実、情報発信に取り組んだ。

表IV-5-2 わかやまDCの取り組み概要

実施期間	2014年9月14日～12月13日
テーマ	和（なごみ）
キャッチフレーズ	和み、和らぐ。和歌山からはじまる旅。
主な企画	<p><b>キャンペーン特別企画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1万人のウォーク&amp;トレッキング</li> <li>・和みわかやま・まるごとスタンプラリー</li> <li>・第19回全国万葉フォーラムin和歌の浦</li> <li>・世界遺産「高野・熊野」コンサート</li> <li>・全国世界遺産観光地サミット</li> <li>・わかやまご当地キャラぼん</li> <li>・和歌山マリーナシティ特別企画</li> <li>・秘宝等の特別公開や国指定名勝等特別ライトアップ</li> <li>・高野山金剛峯寺参拝巡り</li> <li>・特別列車の運行</li> <li>・ハローキティ和歌山スタンプラリー</li> </ul> <p><b>新たな観光素材の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかやまDC特別駅弁・料理の提供</li> <li>・温泉地の魅力「美と健康」をテーマとした温泉地の情報発信</li> <li>・産業とのコラボレーション企画</li> <li>・産直市場・漁港・道の駅等の活用・PR</li> <li>・体験プログラムの充実</li> <li>・紀の国トレイナート</li> </ul> <p><b>おもてなしの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなし県民運動「わかやまおもてなし宣言」の実施</li> <li>・和みわかやまウェルカムサポーター</li> <li>・和歌山おもてなしトイレ大作戦</li> <li>・JRの駅におけるおもてなし</li> <li>・荷物を預けて、手ぶらでらくらく観光</li> <li>・バリアフリー施設情報の発信</li> <li>・和みわかやま宿泊者体験キャンペーンの実施</li> <li>・オリジナルわかばん手ぬぐいプレゼント</li> <li>・麒麟ビバレッジ株式会社によるドリンク協賛</li> </ul> <p><b>2次アクセスの向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高野・熊野アクセスバス」の運航</li> <li>・南紀白浜温泉から熊野へ「無料シャトルバス」を運行</li> <li>・駅から観タクン（時間定額制の観光タクシー）</li> <li>・駅レンタカー特別プランの提供</li> </ul>

資料：2014年8月4日・JRグループプレスリリース資料をもとに（公財）日本交通公社作成

### ○「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年に關するさまざまな取り組みの展開

14年は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産10周年を迎える記念の年に当たることから、三重県・奈良県・和歌山県ではそれぞれさまざまな事業が展開された。三県共同で熊野古道の世界遺産登録10周年を記念したウェブサイトを立て上げた他、フェイスブックに公式ページも開設し、観光情報などの提供を行った。

また、和歌山県は世界遺産登録10周年を記念して「全国世界遺産観光地サミット」を14年9月に高野町で開催した。全国の世界遺産登録地から関係者約150人が集まり、それぞれの地域の課題などが議論された。サミットでは、地域一帯となったおもてなしを実践することや世界遺産の価値と魅力を伝えるために努力すること、世界遺産のある地域が連携し合うことなどを盛り込んだ「高野山宣言」を採択した。

田辺市では14年5月に日西交流400周年記念および「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録10周年を契機に、スペイン国ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラ市と連携して観光交流事業に取り組むための観光交流協定を締結した。

奈良県吉野町では金峯山寺の本尊「金剛蔵王大権現三体」(重要文化財) 公開や「銅造釈迦如来坐像」の特別公開(4月5～15日)、如意輪寺の「後醍醐天皇御霊殿」の特別公開などのイベントが実施された。

#### (市町村)

#### ○近江八幡市におけるBIWAKOビエンナーレ2014の開催

6回目となるBIWAKOビエンナーレが14年9月13日～11月9日にかけて近江八幡市で開催された。14年のイベントは「泡沫～UTAKATA」をテーマに国内外約70人のアーティストが近江八幡旧市街地に残る日本家屋内に作品を展示した。

#### ○京都市内における宿泊施設の動向激しく

京都市内において、外資系高級ホテルの参入が激しさを増している。14年2月には11年1月に閉館した鴨川沿いのホテルフジタ京都の跡地に「ザ・リッツ・カールトン京都」が開業した他、15年3月には嵐山で「翠嵐ラグジュアリーコレクションホテル京都」が09年末まで営業していた老舗旅館「ホテル嵐亭」の風情を残してオープンした。また、既存ホテルも改装が相次いでいる。「京都東急ホテル」は高級客室やレストランを改装して15年3月に開業した他、「ホテル平安の森」も部屋数を増やす改装をして15年2月に開業するなどの動きが見られた。

一方、二条城前にある京都国際ホテルは施設老朽化などを理由に14年12月26日に営業終了となった。その跡地は阪急不動産に売却され、用途としてマンションなど幅広く検討されている。二条城前という絶好のロケーションに位置する跡地の開発について、京都市の門川大作市長は15年1月に阪急不動産と親会社の阪急阪神ホールディングスに対して宿泊施設として整備するよう要望書を提出した。今後の動向が注目される。

#### ○京都市における防災対策

京都市は、これまで清水・祇園、嵯峨・嵐山および京都駅周

辺地域を中心に観光客などの帰宅困難者対策を進めてきたが、その取り組みを全市に拡大させるため、世界文化遺産に登録されている施設や訪問地調査(京都観光総合調査)において訪問者割合が上位にある施設などとの間で「緊急避難広場」および「一時滞在施設」の指定に関する協定を15年3月に締結した。この協定により、累計で緊急避難広場49カ所、一時滞在施設144カ所が指定されることとなった(表IV-5-3)。

表IV-5-3 京都市で新たに指定された緊急避難広場と一時滞在施設

緊急避難広場	
災害直後、観光客の皆様の安全を確保するため、一時的な滞留および災害情報の提供などを行う場所	
世界文化遺産	上賀茂神社(賀茂別雷神社)、銀閣寺(慈照寺)、高山寺、下鴨神社(賀茂御祖神社)、醍醐寺、二条城、仁和寺、龍安寺
人気の観光地	北野天満宮、貴船神社、京都水族館、鞍馬寺、三千院、大徳寺、南禅寺、西陣織会館、毘沙門堂、平安神宮、松尾大社
一時滞在施設	
「緊急避難広場」で滞留している観光客が休憩・宿泊できる場所	
	アバンティビル、上賀茂神社(賀茂別雷神社)、京都タワービル、銀閣寺(慈照寺)、三千院、仁和寺、平安神宮

資料：京都市広報資料をもとに(公財)日本交通公社作成

#### ○京都市における景観規制強化

07年に施行された京都市屋外広告物条例は、市内全域における点滅式・可動式照明の使用を禁じたり、市内のエリア別の屋外広告物の面積や色彩を規制したりするものである。同条例施行前に設置された広告物についても対象となり、その是正期間として7年間の猶予期間が設けられていたが、14年8月末に猶予期間が終了し、9月から完全施行されることとなった。しかし、7月末の時点で規制対象の約2割となる1万件程度が違反状態となっていた。撤去費の捻出が困難などの理由が挙げられるが、京都市は違反者に対して是正命令や氏名公表、行政代執行の措置をするなど、強い姿勢による対応を図ることで京都市内の景観改善に乗り出している。

#### ○京都市内の重伝建地区における全国初の行政代執行

京都市は14年12月、市内東山区の伝統的建造物群保存地区区内で、伝統的建築物の指定を受けた木造家屋のファサードを、条例違反前の状態に「原状回復」する行政代執行を実施した。建築物は木造2階建てで、建物と塀が一体となった「高塀造り」と呼ばれる伝統的な日本建築で、男性が工房を経営していた。市によると、男性は市の許可なく高塀の一部をショーウィンドーとして開放し、外壁にカウンターを設置するなどの改変を施した。市は伝統的建造物群保存地区条例違反に当たるとして、13年7月から是正指導や命令をしており、カウンターは撤去されたものの、他の改変を原状回復する指示に従う兆しなかったため、行政代執行に踏み切った。

#### ○大阪市で空き部屋を宿泊施設として利用する法案否決

大阪府は、国家戦略特区の指定に基づきマンションやアパー

下の空き部屋を「宿泊施設」として利用できるようにする全国で初めての条例制定を目指し、市議会に条例案を提案していた。しかし、安全や防犯、衛生面で懸念が残ることや市に立ち入り権限がないことや罰則規定を設けていないことなどを理由に野党の反対多数により、本会議で否決された。

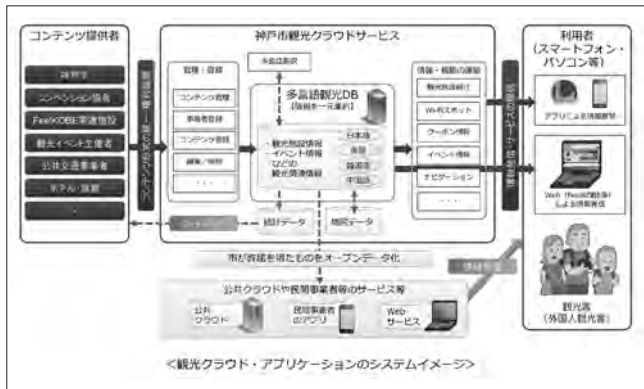
○USJの動員が過去最高を記録

14年のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの年間入場者数が約1,270万人を記録し、前年比220万人増で過去最高を記録した。14年7月にオープンした「ハリー・ポッター」をテーマとしたエリア「ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリー・ポッター」による集客策が成功したことが要因と見られる。

○神戸市における観光情報のオープンデータ化

神戸市は14年に神戸市観光クラウドサービスの開発に取り組んだ。これは観光情報を一元的に集約することで、さまざまな情報端末(PC・デジタルサイネージなど)で観光情報を流通させるためのシステム基盤としての役割を構築する取り組みであり、その観光情報を用いて作成されたモバイル端末用アプリ「KOBE Official Travel Guide by NAVITIME(外国人観光客向け多言語観光アプリ)」が15年3月末にリリースされた(図IV-5-3)。アプリの開発に伴って収集された各種データは「多言語観光データベース」として管理される。データのうち、提供者の許諾を得たものについては公的サイトや民間企業のアプリなどにオープンデータとして提供されることとなる。

図IV-5-3 神戸市観光クラウドサービスの仕組み



出典：平成27年3月30日神戸市記者発表資料

○城崎温泉に「城崎国際アートセンター」オープン

温泉街に位置する芸術家の創造活動の拠点として14年4月にオープンした。アーティスト・イン・レジデンスの拠点としての活用を見込んでおり、ホール、スタジオ、レジデンス(宿泊施設)で構成される。また、舞台芸術の発表の場としてだけでなく、芸術家がまちに暮らすように長期滞在できるアートの拠点となる。城崎国際アートセンターでは年に1~2回の公募によって選

ばれた数人のアーティストやカンパニーを招き、年間を通してアーティスト・イン・レジデンスのプログラムを実施することとなっている。滞在期間は3日間~3カ月間で、その間は宿泊費やホール、スタジオなどを使用料無料で提供する。14年は国内外から31のアーティストが滞在した。

○城崎温泉で初のオンパク開催

14年5月9日~6月8日の1カ月間にかけて城崎温泉で初のオンパク(城崎温泉泊覧会)が開催された。これは、冬期に観光客が偏っていること、外国人観光客が増加し始めたことなどを踏まえ、13年度に「城崎温泉のファンづくり」を基本の考え方とした観光まちづくりの方向性を見直した結果、冬期以外に温泉の魅力伝えていくことを目指して開催することとなったものである。5つのテーマ(「ニッポンの温泉街」城崎温泉をめぐる、山陰但馬の歴史・文化に触れる、「城の崎にて」想い出づくり、「但馬を冒険」自然体験、「美味しい但馬」まるかじり)に沿った60あまりの企画が実施された。

さらに、早くも14年10月17日~11月16日に第2回オンパクが開催され、第1回と同様の5つのテーマに沿って、秋にちなんだ50の企画が実施された。

○奈良市春日大社における「式年造替」

春日大社では15~16年にかけて20年に1度の壮大な式典「式年造替しきねんぞうたい」が執り行われる。式年造替とは、社殿を造り替える一大事業で、伊勢神宮の式年遷宮とは異なり、造替は本殿の位置を変えることなく造り替えが行われることにある。15年3月に一連の儀式が執り行われ、一部の儀式については一般客の参列も可能であった。

○斑鳩町で「観光地区」の決定

斑鳩町では、14年10月1日付で、「法隆寺周辺地区特別用途地区内における建築物の制限の緩和に関する条例」を施行するとともに、法隆寺周辺地区特別用途地区の指定を行う都市計画決定をした。これは、当該地区内およびその周辺の良好な住環境との調和を図りながら、歩いて観光を楽しむことができる店舗や飲食店などの施設の立地を促し、活力とにぎわいのあるまちづくりを推進することを目的とした建築規制の緩和で、指定した区域内での立地可能な建築物の用途や床面積の上限が広がった。例えば、これまで立地できなかった博物館・資料館やホテル・旅館などが一定条件を満たせば立地できるようになった他、観光案内所についても立地条件が緩和された。

○日本ジオパーク「南紀熊野ジオパーク」の登録

新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町の9市町村でジオパーク登録を目指していた「南紀熊野ジオパーク」は、14年8月に日本ジオパークへの登録を実現した。

(西川亮)